

鹿児島県柔道会だより

■発行人：北 哲郎 ■編集：総務部編集委員会 ■発行：公益財団法人鹿児島県柔道会(099-222-7770)

年頭所感 会長 北 哲郎



平成28年の新年を迎え心より新春のお慶びを申し上げます。

昨年は「柔道を通じた人間形成」教育柔道と「武の国薩摩復活」を目指した競技力向上の二点を最重要課題として取り組んで参りましたが、役員をはじめ、関係者の皆様方のご協力の下、幾多の成果を上げ新年を迎えることができました。

「柔道を通じた人間形成」教育柔道面では少年大会を中心とした「薩摩柔道ルネッサンス」宣言も定着し、保護者、指導者、参加している全員に浸透し、薩摩の郷中教育の原点である三訓（負けるな・ウソを言うな・弱いものをいじめるな）が理解されつつあり、少年柔道の修業者が増加していることも事実で、ありがたく思っております。

「武の国薩摩復活」を目指した競技力向上では、「和歌山国体」で少年女子が準優勝・成年女子が5位 皇后杯2位の快挙を成した他、講道館杯に県関係者17名が出場、全日本選抜体重別選手権、グランドスラム東京大会、国際大会でも世界ジュニア選手権、その他各種の大会で本県選手が活躍し、競技力向上に大きく貢献し多大な成果を上げてくれました。これも県警機動隊を中心とした年間を通じての計画的強化訓練の成果と感謝しているところです。

いよいよ2020年本県開催国体まで4年。今年も競技力向上に向けて訓練を推進し、

より以上の成果を期待しております。

今年の干支は申年です。山の賢者で山神の使いと信じられ動物の中でも最も賢いと言われております。干支の申に負けないよう全員で一丸となって知恵を結集し目標に向かって柔道の普及発展に全力で取り組んで行く所存です。

最後になりましたが、今年も皆様にとってよい年になりますよう、お祈り申し上げます。

・稽古納め

12月19日(土) 県柔道会館

平成27年の稽古納めが、19日(土)に県柔道会館で行われた。鹿児島県警や中学・高校・大学生とその指導者ら70人が、熱気ある稽古で汗を流し一年間の稽古を締めくくった。

北哲郎会長の挨拶では、今年も全ての行事が、皆様方の御指導、御支援、御協力のおかげで無事終了し、多くの成果を上げることができたことについての感謝の言葉があった。



続いて、横峯亨五段(鹿児島実業高教)と麓光樹四段(川内商工高教)による「極の形」が披露された。最後に、中藪雅博六段(県警)の指導で乱取りが行われ、稽古納めを終了した。

・稽古始め

1月9日(土) 県柔道会館

平成28年の稽古始めが、9日(土)に県柔道会館において、総勢120人の参加を得て盛況裡に行われた。

北哲郎会長の新年の挨拶では、「県柔道会としては、教育柔道を原点に競技力向上を目指しているが、昨年の国体を見ても少年女子が準優勝、成年女子が5位、皇后杯2位という成績を上げ、その他全国レベルの大会、そして国際大会でも鹿児島出身の選手が活躍した。今年は申年で猿は賢く知恵者ということで、今年も柔道会すべての人の知恵と力を出し合って競技力向上と人間作りに取り組みたい」と話された。

続いて、山野修四段(伊敷中教)と西有生央五段(阿久根中教)による「投の形」が披露された。その後、中菌雅博六段(県警)の指導で乱取り稽古に汗を流した。

最後に、恒例の鏡開きがあり、参加者全員にぜんざいが振る舞われ、今年1年のやる気を新たにして稽古始めを終了した。



乱取りで汗を流す選手ら
—県柔道会館

(H28.1.10 南日本新聞掲載記事)

・第70回国民体育大会柔道競技
見事 女子総合2位 獲得！！

平成27年10月3日～5日に和歌山県和歌山ビッグウェーブで開催された第70回国民体育大会柔道競技において、女子総合で見事2位を獲得しました。それぞれの種別の結果は、少年女子は決勝まで進み、決勝では愛知県に2-0で破れましたが、準優勝に輝きました。また、成年女子は準々決勝で埼玉県に1-0で惜しくも破れましたが、5位に入賞しました。成年男子は、1回戦で千葉県に破れ、上位進出はなりませんでした。

また、10月30日には今回の女子の活躍を祝して、入賞祝賀会を開催しました。



《 郷土選手の活躍 》

今年も本県出身の選手が、全国大会や国際大会で活躍し、上位入賞しました。選手の皆さん、おめでとうございます。

・2015年日本ベテランズ国際柔道大会
(第12回日本マスターズ柔道大会)

平成27年9月20日 佐賀県嬉野市体育館

☆女子団体優勝(見事2連覇！！)

大山 百子(鹿児島第一中教)

中尾小都枝(県柔道会)

古川しげみ(出水中央高教)

・アブダビ世界ジュニア柔道選手権大会

平成27年10月23日～27日 アラブ首長国連邦

☆女子70kg級

青柳 麗美(鹿児島情報高校3年) 準優勝

- ・講道館杯全日本体重別柔道選手権大会
平成27年11月7日～8日 講道館
☆男子66kg級
 豎山 将(鹿屋体育大学4年) 優勝
☆女子78kg級
 濱田 尚里(自衛隊体育学校) 優勝
 高山 莉加(三井住友海上) 準優勝
☆女子78kg超級
 稲森 奈見(三井住友海上) 準優勝
- ・グランプリ・青島 (中国)
平成27年11月20日～22日 中国：青島
☆女子78kg級
 濱田 尚里(自衛隊体育学校) 優勝
- ・グランプリ・チェジュ
平成27年11月26日～28日 韓国：済州島
☆女子78kg級
 高山 莉加(三井住友海上) 3位
- ・柔道グランドスラム東京
平成27年12月4日～6日 東京体育館
☆男子66kg級
 豎山 将(鹿屋体育大学4年) 5位
☆女子78kg超級
 稲森 奈見(三井住友海上) 優勝

(道場めぐり 36)

厳翼館柔道スポーツ少年団の活動
指導者 平田 正剛

現在厳翼館柔道では、小学生6名、高校生1名がさつま町の厳翼館で活動しています。活動内容としましては週3回、1時間半から



2時間程度練習を行っています。
小学生のうち、体も成長過程でできあがっていない事もふまえて、試合などで勝ち負けにこだわらず、まずは柔道を好きになってもらい、長く柔道を続けて柔道を通して人として成長をしていってほしいと思います。
練習も練習前にオニゴッコやリレーなど、遊びを取り入れ体を動かし気持ちを盛り上げてから、柔軟や補強運動、受け身など基本に重点を置いて練習に取り組んでいます。
柔道以外の活動としましては、町の行事などに参加したり、ボランティア活動として神社の清掃活動を行っています。
生徒募集では昨年からは市内の各学校にポスター配布をお願いし、徐々にではありますが、柔道をやってみようという子供が市内町外から練習に参加してくれています。
今後も、鹿児島県柔道会、各方面の先生方のご指導をいただきながら感謝の気持ちを忘れず頑張っていきたいと思っています。

(道場めぐり 37)

「天城柔道スポーツ少年団」の歩みと現状
監督 徳田 武浩

天城柔道スポーツ少年団は、2004年に私の息子やその友達と少人数で立ち上げました。二人三人と増え現在は、小学生18名、卒団した中学生が数名参加して週3日(月・水・金)2時間の練習に汗を流しています。

同じ鹿児島県内でも奄美大島は本島と離島があり移動となると船で4時間かかるとなかなか交流が出来ずに、県本土に比べると合同練習も出来ず試合数も少なく子供たちには経験を積まず事が出来ずに可哀想な思いをさせています。また、県大会ともなると船移動する為に約4日間、それに伴う費用など色々苦勞します。そういった状況の中で子供達は本土の子供達に負けない様に精一杯練習をしています。「離島からでも出来る」と教えています。本土に負けていない離島では、南種子柔道の立石先生や子供達の姿は私たち天城の子供達の活力となっています。

練習としては、第一に怪我をしない・させない練習を心掛け「薩摩柔道ルネッサンス」を主軸とし技術・体力・精神面を子供一人一

人を見てその子の性格・特徴などを確認しながら指導しています。また、卒団した中学生も時間を見つけて練習に参加してくれて全員が兄弟の様な関係で練習中は厳しく休憩中は楽しくしています。私自身も楽しみながら親子同然の関係を築いています。監督自身が未熟者なので中学校強化指導員の真正先生や西先生に色々学びながら手探りではありますが精一杯汗を流している子供達と喜びを共有出来る様に勉強中です。将来的に皆が「柔道が好きだ」と言ってもらえる様に、また柔道に携わってってもらえる様に頑張っていきたいと思ひます。

最後に私事ですが、高校入学が決まっていた息子が平成26年3月に他界してしまいました。息子は柔道が好きでいつも柔道のことばかり話していました。出来ない事を出来る様に練習を重ね一生懸命に過ごしていました。子供達には、今あることが当たり前だと思わず柔道が出来ると言う事の喜びをしっかりと感じながら一日一日を大切に精一杯過ごして欲しいと思っています。



各種大会の成績(10月～1月)

・県下高等学校新人柔道大会

10月22日(木)・23(金)

鹿児島アリーナ

◇男子団体戦

- 1位 鹿児島実業高校
- 2位 鹿児島商業高校
- 3位 明桜館高校
- 4位 鹿児島情報高校

◇女子団体戦

- 1位 鹿児島情報高校
- 2位 鹿児島南高校
- 3位 れいめい高校
- 4位 種子島中央高校

◇男子個人戦

◇60kg級

- 1位 加藤 輝 (明桜館高校)
- 2位 富森 海斗 (鹿児島情報高校)

◇66kg級

- 1位 黒葛野奎介 (鹿児島情報高校)
- 2位 日笠山海渡 (鹿児島工業高校)

◇73kg級

- 1位 田中 秀伍 (鹿児島情報高校)
- 2位 幸田 州世 (明桜館高校)

◇81kg級

- 1位 青柳 大虎 (鹿児島情報高校)
- 2位 福崎 廉 (鹿児島実業高校)

◇90kg級

- 1位 野間 雄貴 (鹿児島商業高校)
- 2位 松寄 海渡 (鹿児島工業高校)

◇100kg級

- 1位 大脇 充倫 (鹿児島実業高校)
- 2位 中武 大智 (鹿児島情報高校)

◇100kg超級

- 1位 中山 永遠 (明桜館高校)
- 2位 中崎 一光 (明桜館高校)

◇女子個人戦

◇48kg級

- 1位 小川 真未 (鹿児島南高校)
- 2位 小園 彩香 (川内商工高校)

◇52kg級

- 1位 森 瑞穂 (鹿児島南高校)
- 2位 瀧川 琳花 (鹿児島情報高校)

◇57kg級

- 1位 吉時 春菜 (鹿児島南高校)
- 2位 長谷川 楓 (鹿児島情報高校)

◇63kg級

- 1位 邊木園瑞稀 (鹿児島南高校)
- 2位 末吉 千湖 (れいめい高校)

◇70kg級

- 1位 野間 陽 (鹿児島情報高校)
- 2位 崎山久美子 (加治木高校)

◇78kg級

- 1位 善 真悠(出水中央高校)
2位 西 彩乃(れいめい高校)

◇78kg超級

- 1位 古市 真愛(鹿児島情報高校)
2位 宇都 知里(鳳凰高校)

県高等学校柔道選手権大会(H27.10.22)

柔道MINDスピーチ

加治木工業高校教諭 上村 修

先日、私は柔道の歴史について勉強する機会があり、柔道の魅力を再認識することができました。皆さんも、講道館柔道の歴史について、武道の授業や昇段試験等で学んだことがあると思います。「柔道MIND」は、嘉納治五郎先生の教えの精神、柔道の心に立ち返ろうという気持ちが込められた取り組みであり、歴史を学ぶ事で自分の姿を見つめなおす機会になると思います。

柔道の歴史、特に「精神・MIND」について触れておきます。嘉納先生は柔術の修行で、身体的な成長だけでなく精神的な成長を実感し、柔道の基本理念を「精力善用」「自他共栄」とされました。少し詳しく説明すると、「精力善用」は「精力の最善活用」の約で、「目標を達成するために精神の力と身体のを最も有効に働かす」ということです。ただし、「目標」は「善」、つまり社会に貢献できることでなければなりません。「自他共栄」は「相助相譲・自他共栄」の略で、「自己の栄えのみを目的とせず、助け合い、譲り合い、融和協調して、共に栄えることを目指す」ということです。この二つの理念は密接に関係し、個人の完成が社会の発展に繋がり、社会の発展は個人の完成を助ける事になります。

少し難しい話になりましたが、皆さんは柔道を通して、精神的な変化を感じていますか？柔道「MIND」では、「礼節」「自立」「高潔」「品格」を守ってこそ真の柔道家であると示しています。具体的な行動で考えると、「礼節」は挨拶ができるようになる、時間を守り場をわきまえて行動できるようになるということで、柔道を始めることで身につくものだと思います。「自立」は自分の言動に責任を持ち、苦しくてもあきらめずに取り組み

るようになるということで、継続的に練習を重ねて身につくものだと思います。「高潔」は自分の事だけでなく周りの人に気遣えるようになるということで、失敗や挫折を繰り返す、ある程度自分の目標が達成できた段階で身につくものだと思います。最後に、「品格」は「礼節」「自立」「高潔」すべてが身に付いた人の行動に自然と現れるもので、最終目標となると思います。皆さんの精神は今どの段階か、是非考えてみてください。

最後になりますが、この会場に集まった柔道に係わるすべての人は、今後の柔道の歴史を築いていく貴重な存在です。選手の皆さんは、礼を重んじ全力で臨む試合で、応援される皆さんはマナーや節度を守った応援で、指導者はプレーヤーズファーストの指導で大会を盛り上げ、嘉納先生が示された柔道の理念に沿った精神を磨いていきましょう。

・第4回 県中学校新人体重別柔道大会

11月3日(火・祝)鹿児島アリーナ

◇男子個人戦

◇50kg級

- 1位 立石 倫大(南種子中学校)
2位 吉元 悠真(吉野中学校)

◇55kg級

- 1位 中村 康誠(中種子中学校)
2位 南 龍太郎(西紫原中学校)

◇60kg級

- 1位 菅 太陽(立神中学校)
2位 岩坪 翔輝(吉野中学校)

◇66kg級

- 1位 長谷川直哉(帖佐中学校)
2位 小田桐和真(田検中学校)

◇73kg級

- 1位 濱田 聖良(吉野中学校)
2位 最勝寺健翔(舞鶴中学校)

◇81kg級

- 1位 小原 健誠(吉野中学校)
2位 日笠山 聖(里中学校)

◇90kg級

- 1位 橋口 佳尚(吉野中学校)
2位 山元 隆一(川内北中学校)

- ◇90kg 超級
 - 1位 岩坪 龍輝 (吉野中学校)
 - 2位 金山 和哉 (谷山中学校)
- ◇女子個人戦
- ◇40kg 級
 - 1位 城戸 鼓夢 (谷山中学校)
 - 2位 馬場 夢未 (里中学校)
- ◇44kg 級
 - 1位 向吉 湖菜 (東谷山中学校)
 - 2位 鳥越 璃子 (川辺中学校)
- ◇48kg 級
 - 1位 中馬 梨歩 (吉野中学校)
 - 2位 竹之内双葉 (加世田中学校)
- ◇52kg 級
 - 1位 宮原 友紀 (重富中学校)
 - 2位 前田 彩 (伊集院中学校)
- ◇57kg 級
 - 1位 三崎 茉莉 (吉野中学校)
 - 2位 上野 祥歩 (阿久根中学校)
- ◇63kg 級
 - 1位 永山 麗奈 (東市来中学校)
 - 2位 天川きらり (末吉中学校)
- ◇70kg 級
 - 1位 清水 風音 (坊津学園中学校)
 - 2位 宮田 礼菜 (末吉中学校)
- ◇70kg 超級
 - 1位 芝原 和花 (川辺中学校)
 - 2位 田中しのぶ (金久中学校)

・九州高等学校新人柔道大会
 11月29日(土)・30日(日)
 鹿児島アリーナ

- ◇女子団体戦
 - 3位 鹿児島情報高校
- ◇男子個人戦
- ◇73kg 級
 - 3位 幸田 州世 (明桜館高校)
 - 3位 田中 秀伍 (鹿児島情報高校)
- ◇女子個人戦
- ◇70kg 級
 - 3位 野間 陽 (鹿児島情報高校)
- ◇78kg 超級
 - 3位 宇都 知里 (鳳凰高校)

- ・県下少年柔道大会**
 12月23日(水・祝) 鹿児島アリーナ
- ◇団体戦
 - 1位 修道館A (鹿児島) ※初優勝
 - 2位 柔心館道場A (曾於)
 - 3位 青雲クラブ柔道スポーツ少年団A(始良・伊佐)
 - 3位 末吉柔道スポーツ少年団A (曾於)

県下少年柔道大会(H27. 12. 23)
柔道MINDスピーチ
柔心館道場 指導者 西郷昌隆

これまでも、多くの方々が大会の度にルネッサンスやMINDについてスピーチを行ってこられました。それだけ、このルネッサンス活動・MINDが大切で、今の柔道界にとって必要だということです。

これから、私は、MINDについてお話をさせていただきます。

MINDは心・精神・理性・類性を意味します。これは柔道の再生のためには、柔道の創設者である嘉納治五郎先生の問題意識であり、つまり、日本柔道の原点に返らなければならないという事だと思います。

また、MINDというには言葉には、それ自体に大きな意味があり小学生には、少し難しいかもしれませんが、

- ・礼節＝柔道は礼に始まり礼に終わる、敗者を思いやる心が本当の勝者を育てる。
- ・自立＝指導者にコントロールされ過ぎない選手になる事。最終的には一人で考え成長する事が教育である。
- ・高潔＝誇り、プライドをもちなさい。
- ・品格＝人間としての格を高める。勝利主義ではダメだ。

という事です。

しかし、現実には、柔道は武道ですが、スポーツでもあり、勝敗にこだわる面もあります。この勝利至上主義の中で、指導者による暴力事件が発生したのだと思います。

しかしながら、私自身もどうしたら強くなるのか、どうしたら勝てるのかといった事だけに囚われ、今思えば、様々な行動について反省すべき点がたくさんありました。

柔道の指導を通じて、相手を投げたり、抑えたりする技術だけでなく、柔道の楽しさ、

そして、素晴らしさを伝えて行きたいと思えます。柔道に携わる一人一人が主役となって、柔道界を今まで以上に素晴らしいものに変えて行きましょう。

最後になりますが、私も偉そうにお話しできる立場ではありませんが、試合で負けた子供に、怒鳴る、起こる先生方、その柔道を教えているのは、私たち指導者です。負けて一番悔しいのは、試合をした本人です。負けた理由をお互い考え、これからどう指導するかが大切だと思います。子供や保護者は、指導者を見て育ちます。私も心を引き締めて、恥じない振る舞いを目指したいと思えます。

・鹿綜警杯 第56回

県下高等学校柔道選手権大会

1月23日(土)・24日(日) 鹿児島アリーナ

◇男子団体戦

- 1位 鹿児島情報高等学校(3年ぶり)
- 2位 明桜館高等学校
- 3位 鹿児島実業高等学校
- 3位 鹿児島商業高等学校

※5人抜き 葛大(種子島中央)、松井優人(鹿児島商業)、中村駿介(加世田)

◇女子団体戦

- 1位 鹿児島南高等学校(4年ぶり)
- 2位 鹿児島情報高等学校
- 3位 れいめい高等学校
- 3位 種子島中央高等学校

◇男子個人

◇60kg級

- 1位 加藤 輝(明桜館)
- 2位 富森 海斗(鹿児島情報)

◇66kg級

- 1位 宮田寅之介(鹿児島商業)
- 2位 日笠山海渡(鹿児島工業)

◇73kg級

- 1位 田中 秀伍(鹿児島情報)
- 2位 幸田 州世(明桜館)

◇81kg級

- 1位 青柳 大虎(鹿児島情報)
- 2位 福崎 廉(鹿児島実業)

◇無差別級

- 1位 大脇 充倫(鹿児島実業)
- 2位 松寄 海渡(鹿児島工業)

◇女子個人戦

◇48kg級

- 1位 小川 真未(鹿児島南)
- 2位 久保田ひなの(種子島中央)

◇52kg級

- 1位 森 瑞穂(鹿児島南)
- 2位 瀧川 琳花(鹿児島情報)

◇57kg級

- 1位 吉時 春菜(鹿児島南)
- 2位 長谷川 楓(鹿児島情報)

◇63kg級

- 1位 邊木園瑞稀(鹿児島南)
- 2位 末吉 千湖(れいめい)

◇無差別級

- 1位 古市 真愛(鹿児島情報)
- 2位 野間 陽(鹿児島情報)

※本年度より、鹿児島総合警備保障株式会社(ALSOK)が協賛となり、「鹿綜警杯」として開催しました。

柔よく
剛を制す



鹿綜警杯 第56回県下高等学校
柔道選手権大会



鹿児島総合警備は柔道に励むみんなを応援します!

第56回県下高等学校柔道選手権大会
(H28.1.23)

柔道MINDスピーチ

鹿児島情報高校 青柳 麗美

私が柔道を始めたのは小学校4年生の時に、兄弟の影響で始めました。昔からまじめではなかった私はいつもトイレに行ってさぼってばかりで、4年から6年までは県大会で3位どまりでした。

大きな転機となったのは、中学校の3年間で、まず私が一番苦戦したのが体重の増量でした。入学当時50kgだった体重を1年で約10kg増やし、最終的には76kg前後までもっていきました。しかし、毎日の練習で約2kg落ち、維持するのも大変で泣きながら夜の12時を過ぎても食べていました。そのかいがあって、体重が増えるほどにパワーと重みが、技や相手に伝わっていると実感したので本当に体重を増やして良かったなと今は思っています。ちなみに今は以前食べていて半分の量でもオーバー気味です。

もう一つ、私には大きな課題がありました。それは、「勝っておごらず、負けて悔しがらない。」ということです。

中学に入って勝つことが多くなり、勝ち慣れていなかった私はすぐに調子に乗ってしまい、ケガや体調を崩すことが多くなってしまいました。柔道も投げよう投げようとする度に空回りして、イライラして怒られて泣いての日々でした。その時にいつも顧問の先生が言っていた言葉がありました。「謙虚か？」そのたった一言で毎回ハッと自分の未熟さに気づくことができました。「謙虚」とは、自分を高める事、伸ばす事に一生懸命になることという風に教わっていた私はその一言を言われたら、ただがむしゃらに前の技をかけていたのをやめ、足技や崩しを考えながら使うとすぐにうまくいきました。

「負けて悔しがらない」というのは、自分の気持ちの問題です。負けたから泣いてわめいて畳をなぐっても何も変わりません。むしろかっこ悪いです。柔道は対人競技であり、相手がいるからできるというのは何度も教わった事があると思います。悔しいというのは、相手と自分を比べているから、「自分は相手よりも強いはずなのに」という傲りや「もっとできたはずなのに」という後悔であって、「負け」という結果をただ自分で受け入れられていない未熟な心と柔道に対する感謝の気持ち忘れていたからだだと思います。なので、一試合終わったら少し頭を整理して、「今回はなぜ負けたのか。」「改善点、課題は何か。」ということを見直し、次の試合につなげ、謙虚と感謝を改めて考えるキッカケにすればいいと思います。

考え方というのは本当に大切で、「ダメだ、ムリだ。」と思ったり、声に出したりした瞬間に頭がその気になってしまって本当にダメになってしまいます。逆に、「自分是可以。絶対できる。」という気持ちや声に出すことで、頭がその気になっていきます。私は試合前のルーティーンでそういうプラスの言葉を千回位言っています。

長くなりましたが、私は試合の五割以上は運だと考えています。その運を持ってくるのは日頃の練習態度もですし、私生活や人に喜んでもらえるようなことを考え、実践して、試合当日に自分の自信につながっていたらきっと、「絶対できる。」という言葉が自然と口から出てくると思います。

応援してくれる周りの方々を喜ばす事ができるように選手の皆さん楽しんで頑張ってください。

主な行事予定(2月～5月)

- 2月 6日(土) 県柔道選手権大会
県柔道女子選手権大会
(鹿児島アリーナ)
- 2月14日(日) 県下中学校新人柔道大会
(鹿児島アリーナ)
- 2月20日(土) 県下少年新人柔道大会
(鹿児島アリーナ)
- 3月21日(月)～26日(土)
春期柔道講習会(柔道会館)
- 3月27日(日) 春季昇段試験(柔道会館)
- 5月14日(土) 県柔道会評議員会
- 5月18日(水)・19日(木)
県柔道指導者講習会
(県総合体育センター武道館)

【編集後記】

オリンピックイヤーの今年、郷土出身選手のオリンピック出場の期待がかかります。これらの選手のように、高校時代に県内で努力することで、その後、全国大会あるいは国際大会でも活躍できることが、証明されてきています。柔道を志す後輩たちも先輩の足跡をたどって、県内で修行して全国、世界へ飛び立ってほしいものです。(文責：田島)